

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名		臨床柔道整復学・各論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年		3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎303
担 当 教 員		梅田 正浩・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・林了大・澤卓実		実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》							
1.2年生で履修した内容で復習が基本となりますが、事前に復習するなどの準備が必要です。 試験に合格できるように、計画通りに準備を進めましょう。							
《成績評価の方法と基準》							
期末試験評価:100%							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
解剖学・生理学・柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 適宜関連資料の配布を実施							
《授業外における学習方法》							
実施問題範囲を事前に予告してから実施するので各自予習をして授業に臨むこと。							
《履修に当たっての留意点》							
国家試験合格がゴールではありませんが、重要な通過地点の1つとなります。 復習も大切ですが、受験生としての事前準備がこの講義では必要です。 自覚を持って計画的に準備するようにして下さい。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	現状把握を行うとともに、講義コマごとの進行を把握し、次回以降の準備をスケジュール立てる。		解剖学・生理学・ 柔道整復学理論 編(全国柔道整 復学校協会編 集)	2回目からの授業内を伝えるため、今後は準備学習が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション 講義および確認問題の進め方				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復に関連する解剖学を理解する。		解剖学・生理学・ 柔道整復学理論 編(全国柔道整 復学校協会編 集)	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	確認問題① 問題の実施と解答				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復に関連する解剖学を理解する。		解剖学・生理学・ 柔道整復学理論 編(全国柔道整 復学校協会編 集)	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	確認問題② 問題の実施と解答				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復に関連する解剖学を理解する。		解剖学・生理学・ 柔道整復学理論 編(全国柔道整 復学校協会編 集)	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	確認問題③ 問題の実施と解答				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復に関連する解剖学を理解する。		解剖学・生理学・ 柔道整復学理論 編(全国柔道整 復学校協会編 集)	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。	
		各コマにおける授業予定	確認問題④ 問題の実施と解答				

授業の方法			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復に関連する生理学を理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑤ 問題の実施と解答	
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復に関連する生理学を理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑥ 問題の実施と解答	
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復に関連する生理学を理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑦ 問題の実施と解答	
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論を復習し、理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑧ 問題の実施と解答	
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論を復習し、理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑨ 問題の実施と解答	
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論を復習し、理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑩ 問題の実施と解答	
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論を復習し、理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑪ 問題の実施と解答	
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論を復習し、理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑫ 問題の実施と解答	
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	柔道整復理論を復習し、理解する。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	確認問題⑬ 問題の実施と解答	
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	履修内容の総合確認を行ない、国家試験同等問題が解けるようになる。	各実施内容に応じたテキストならびに資料の確認が必要となる。
		各コマにおける授業予定	①～⑬までの確認	

2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	臨床柔道整復学・各論Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対 象 学 年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎303
担 当 教 員	梅田 正浩・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・林了大・澤卓実	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
1,2年生で履修した内容で復習が基本となりますが、事前に復習するなどの準備が必要です。試験に合格できるように、計画通りに準備を進めましょう。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
解剖学・生理学・柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 適宜関連資料の配布を実施						
《授業外における学習方法》						
実施問題範囲を事前に予告してから実施するので各自予習をして授業に臨むこと。						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験合格がゴールではありませんが、重要な通過地点の1つとなります。 復習も大切ですが、受験生としての事前準備がこの講義では必要です。 自覚を持って計画的に準備するようにして下さい。						
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 16 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	肋骨骨折・顎関節脱臼について質問や問題に答えられるようになる		配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく
		各コマに おける 授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第 17 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	鎖骨骨折・上腕骨外科頸骨折について質問や問題に答えられるようになる		配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマに おける 授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第 18 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	上腕骨顆上骨折・コーレス骨折について質問や問題に答えられるようになる		配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマに おける 授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第 19 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	舟状骨骨折・中手骨骨折について質問や問題に答えられるようになる		配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマに おける 授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			
第 20 回	講義 形式	授業を 通じての 到達目標	中手骨骨折・指骨骨折について質問や問題に答えられるようになる		配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマに おける 授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨脱臼・肩関節脱臼について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第22回	講義形式	授業を通じての到達目標	鎖骨脱臼・肩関節脱臼について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第23回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩部軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第24回	講義形式	授業を通じての到達目標	肩部軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第25回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘関節について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第26回	講義形式	授業を通じての到達目標	肘・前腕部軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第27回	講義形式	授業を通じての到達目標	大腿骨頸部骨折について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第28回	講義形式	授業を通じての到達目標	膝蓋骨脱臼・膝関節・軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第29回	講義形式	授業を通じての到達目標	中足骨骨折・足部軟部組織損傷について質問や問題に答えられるようになる	配布プリント	・左記内容について教科書を見直しておく ・前回講義内容の復習をしておく
		各コマにおける授業予定	上記範囲について柔道整復師として知っておくべき内容を学ぶ		
第30回	講義形式	授業を通じての到達目標	本講義内容を理解し、国家試験過去問題を解けるようになる	配布プリント	これまでの講義内容に環指、プリントや教科書を見直しておく
		各コマにおける授業予定	まとめ		